

ロシア連邦における幼児教育の方法・理念に関する一考察 —地方における事例を手掛かりに—

黒木 貴人

A Study of Early Childhood Education Methods and Principles in Russian Federation : Through the Case in a Rural Area

Takahito KUROKI

1. はじめに

本稿では、ロシア連邦での過去の現地調査の様子を元に、同国における幼児教育・保育の方法や理念について整理し、今後の研究のための基礎的考察を行うものである。

ロシア連邦は周知の通り、世界一の広大な国土を誇る国家であり、かつ約200もの諸民族が暮らす多民族国家でもある。日本にとっては日本海・オホーツク海を挟んでの隣国に当たるが、その内実はあまり馴染みのない部分が少なくないだろう。とりわけ、同国で営まれる幼児教育や保育がどのようなになっているのかという部分については、日本においてはあまり紹介されることがない。ロシアの幼児教育や保育の研究を専門とする研究者も非常に少ない状況にある。

筆者はロシア連邦の教育政策・教育制度について研究を重ねてきているが、2013年5月には同国クラスノヤルスク地方での現地調査を行い同地域の幼稚園の様子を視察する機会を得た¹。そこでは、日本の幼稚園の現場と共通するような営みや環境が見られたと同時に、多民族国家であるがゆえの様々な特徴が垣間見えた。本稿においては、それらの事例を整理するとともに、ロシア連邦における幼児教育の方法やその根底にある理念の特色について若干の考察を加えたい。

2. ロシア連邦における幼児教育・保育の現状

事例を見ていく前に、ロシア連邦の幼児教育の

制度的概要や現状について簡単に整理したい。

ロシア連邦の幼児教育は、「就学前教育²」として「普通教育」の一部に位置づけられる。すなわち、ロシア連邦全体の教育について包括的に規定している「連邦教育法」の規定によると、就学前教育から高校段階までの教育は連続性を有した「普通教育」と位置づけられる（連邦教育法第63条）。そして就学前教育の目的は「一般的な教養の形成、心身、道徳、美意識及び個性の発達、学習活動の前提条件の形成、就学前の子どもたちの健康の維持及び改善を方向付ける」こととされている（連邦教育法第64条）。

これらの目的を実現する具体的な教育機関については、「就学前教育施設標準規程」が定められている。同規程8条によると、ロシア連邦には以下の8つの幼児教育機関のタイプがある。

- ①一般的な教育プログラムを実施する幼稚園
- ②乳児（2か月から3歳未満児）のための幼稚園³
- ③就学前児童（5～7歳）のための幼稚園
- ④監督と健康改善⁴を行う幼稚園
- ⑤障害児のための幼稚園
- ⑥複合型⁵の幼稚園
- ⑦知的・芸術的・身体的能力など特定の分野の活動を優先的に実施する幼稚園
- ⑧全ての子どもを対象に心身の発達、矯正、健康改善を実現する児童発達センター

近年は①の幼稚園の数は減少傾向にあり、逆に

⑥複合型の幼稚園や⑧児童発達センターの数が増加傾向にある。これは、一般的な幼稚園としてスタートした施設が、その後に施設・設備や保育内容・方法の充実、専門職の配置拡大をし、複合型の幼稚園や児童発達センターとして認められるケースが増えているからである（村知2014、81頁）。幼稚園の設置主体は、自治体及び社会団体、宗教団体、個人となっている。

2013年には、連邦全体の新たな就学前教育の教育課程基準として「就学前教育連邦国家教育スタンダード」が制定された。同スタンダードは、子どもの多様性の尊重を謳った「子どもの権利条約」も踏まえつつ作成され、「就学前教育の社会的地位の向上」「連邦としての教育水準の向上」「連邦としての教育空間の統一性の維持」を目的としている。現在のロシア連邦における就学前教育は、同スタンダードに基づく形で各園において展開されている。基本的には日本と同じように、コミュニケーション能力の発達、国や地域の文化などを含む周りの世界に対する興味関心、言葉や音楽などの芸術的・美的感覚の発達、身体的な発達などを考慮し、発達段階に応じて多様な活動（遊び）を展開していくことが求められている。

なお、ソ連崩壊後のロシア連邦は、「一時的な回復がみられるものの、全体としては急速に進む少子化傾向」にある（村知2015、43頁）。それに伴い、ソ連時代と比べて就学前施設も減少しており、いわゆる待機児童も深刻な状況にある⁶。

3. 事例：クラスノヤルスク地方の幼稚園

次に、クラスノヤルスク地方の幼稚園を訪問調査した際の様子をまとめる。その前提として、まずはクラスノヤルスク地方に関する各種概要について整理する。

（1）クラスノヤルスク地方の概要

クラスノヤルスク地方はロシア連邦の中央部に位置し、連邦内で2番目に大きな面積を誇っている⁷。人口は約300万人で、中心都市のクラスノヤルスク市は100万人都市でもある。

同地方の特徴は、その広大な土地に大小の多様な諸民族が暮らしていることにあるクラスノヤルスク地方には、100を超える諸民族が暮らしてい



図 クラスノヤルスク地方の位置

出典：Wikipedia

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%8E%E3%83%A4%E3%83%AB%E3%82%B9%E3%82%AF%E5%9C%B0%E6%96%B9>)

るが、ロシア人の人口比率が約9割である。同地方の先住少数民族⁸として法的に規定されているのは8の民族である。

その中でも、2013年5月の現地調査ではエヴェンキ人の教育をめぐる諸状況について調査を行った。エヴェンキ人は同地方を中心に暮らしており、ロシア全土で約2万人、クラスノヤルスク地方には約4000人が暮らしている。今も遊牧を営みながら生活をし、トナカイ狩猟で得られる毛皮などから得られる収入をもとに暮らしている人も少なくない。クラスノヤルスク地方の中でも、民族名を冠しているエヴェンキ自治体区にその割合は多い。この自治体区は、もともとエヴェンキ人が先住して治めていた地域である。ただし、同自治体区内においても現在の民族構成はロシア人が圧倒的に多い。エヴェンキ人を始めとする先住少数民族は約25%に留まっている。

エヴェンキ人に限らず、クラスノヤルスク地方においては、トナカイ狩猟などの先住少数民族の「伝統的な活動」に対し金銭的援助を行うなど、彼らの人権保障を積極的に推進している。

エヴェンキ自治体区においても、「エヴェンキ地区北方学校発展コンセプト」というものが取り決められ、教育に関連する部分についてはエヴェンキ人をはじめとする先住少数民族の言語や文化などを保障するための方向性が定められている。

(2) エヴェンキ自治体区内の幼稚園



写真1 幼稚園の入り口

そんなエヴェンキ自治体区にある一つの幼稚園の事例について、以下に紹介する。

同園は、第2節において整理したロシア連邦における幼稚園のタイプの中では①の一般的な教育プログラムを提供する園に当たる。調査訪問時は、すでに学期が終了しているということもあり、園内にいる子どもたちは少なかった。また、訪問時間帯がちょうど午睡の時間に当たり、寝顔を拝見することしだできなかった。

そんな中ではあったが、園長をはじめ教職員の方々に園内を案内していただいた。



写真2 園庭

写真2は園庭であるが、滑り台や雲梯など日本と同じような遊具があり、似たような外遊びをしている様子が窺える。

次に保育室の中の様子であるが、写真3左奥にはおままごとができるようなスペースなどが見られる。これも日本と同様な遊びが展開されている様子がイメージできるだろう。ちなみに、右奥が



写真3 保育室の様子①

午睡スペースとなっており、調査訪問時はここに数人の子どもが寝ていた。

日本と変わらぬ幼児教育の環境の特徴が見られる一方で、この幼稚園の最大の特徴は、子どもたちへのエヴェンキ人の文化及びロシア人の文化に関する教育や活動が、保護者・教職員の密接な協力関係のもとに行われている点にある。同園に在籍する園児たちは、ロシア人が多いがエヴェンキ人も少なくない。お互いの民族としての文化を理解し、共生していくための環境づくりや教育方法にかかる工夫がいたるところに為されているのである。以下、その具体について幾つか見ていこう。



写真4 保育室の様子②

写真4は、保育室の別の角度を撮ったものであるが、色鮮やかな壁面が目に残ることだろう。これは、エヴェンキ人の伝統的な色使いを用い、子どもたちが作成したものであるという。

エヴェンキ人の文化を子どもたちに伝え、親しむための活動は他にもある。写真5はエヴェンキ人の伝統工芸品などに関する展示コーナーであ



写真5 エヴェンキ文化の展示

る。ビーズの刺繍を施したお守りやカバン、民族衣装、北方地域に生息する動物の模型などが並んでいる。これらは全て、保護者と教職員も協力し合いながら、子どもとともに作り上げているということであった。



写真6 ロシア文化の展示

エヴェンキ人の文化だけでなく、ロシア人の文化に対する理解に向けた活動も展開されている。写真6は、ロシア人の子育て世帯の伝統的な部屋の様子を模した展示コーナーである。華やかな花瓶や食器、置物が目を引くだろう。写真左に見えるレースの中には、赤ちゃんが寝るための揺り籠がある。これも、ロシア人の伝統的なものである。このコーナーにあるものも、エヴェンキ文化に関するコーナーと同様、子どもたちが保護者・教職員とともに作っているようだ。

これらの様子から、同園においてはロシア人とエヴェンキ人が共生するという地域独自の特性を踏まえ、「就学前教育連邦国家教育スタンダード」で求められるような国の基準（コミュニケーション

ン能力の発達、国や地域の文化などを含む周りの世界に対する興味関心、言葉や音楽などの芸術的・美的感覚の発達、身体的な発達）を満たす形で幼児教育が展開されていることを看取できる。そして、そのための方法的な特徴として、両民族の文化を保護者と教職員も子どもと一緒に楽しみ、共に制作活動などをしていることが挙げられる。

4. おわりに

以上、ロシア連邦の幼稚園の様子について、クラスノヤルスク地方・エヴェンキ自治体区の幼稚園を事例として訪問調査時の模様から整理してきた。ロシア連邦には日本と同様に、環境を通しての遊びを中心としながら子どもの発達を促すという幼児教育の理念がある。すなわち、日本における幼稚園教育要領ではいわゆる「5領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらいや内容を踏まえることが、子どもの遊び・活動を展開する上で求められている。ロシア連邦でも、2013年制定の就学前教育連邦国家教育スタンダードにおいてコミュニケーション能力の発達、国や地域の文化などを含む周りの世界に対する興味関心、言葉や音楽などの芸術的・美的感覚の発達、身体的な発達という4つの側面から子どもの育ちを想定し、活動・遊びが展開されることが法的な基準として求められている。

ただし、ロシア連邦の場合は多民族であるがゆえに、配慮しなければならないことも少なくない。就学前教育連邦国家教育スタンダードを制定する目的として「連邦としての教育空間の統一性の維持」が掲げられているが、これは多民族から構成される連邦国家において、連邦内に暮らす人々の多様な民族性・文化性に配慮しながら連邦として統一的な「教育への権利」の保障を為す、という理念である¹⁰。

事例にて概観した幼稚園では、就学前教育連邦国家教育スタンダードに基づく教育プログラムの中で、エヴェンキ人・ロシア人それぞれの子どもがいずれの文化にも触れることができ、かつそれを園生活の中で実際の活動として取り入れる様子が散見された。まさに、ロシア連邦における多文化共生の視点を踏まえた幼児教育の方法として、

注目すべき点であろう。そしてそのアプローチは、既述のように保護者の協力を得ながら成し得ているということも看過できないポイントと言える。実際の社会生活の中での民族文化をいかに園の生活に反映していけるかは、当該園の教職員だけでは難しい部分があることも想像される。その意味からも、実際の民族文化を営んでいる保護者からの協力を得ながら活動を展開するという教育方法は、子どもに対し活きた経験を提供することにつながることが期待できると言えよう。

本稿では一事例をもとに基礎的な考察を行ってきた。コロナ禍の影響も相まって、現地調査が困難となる状況が続くことが想定されるが、様々な手段を駆使して今後さらに他の園の様子についてもアプローチし、より立体的にロシア連邦の幼児教育の方法・理念を描くことを目指したい。

参考・引用文献

- 黒木貴人 (2020) 「新しい時代教育ガバナンス—ロシア連邦教育法に見る教育制度・教育行政—」ロシア・ソビエト教育研究会編『現代ロシアの教育改革』東信堂 (近刊)。
- 村知稔三 (2015) 「ロシアにおける子育て支援政策の現状と課題」『海外社会保障研究』第191号、42-52頁。
- 研究代表者岩崎正吾 (2014) 『先住民族の教育権保障に関する国際比較研究 平成25年度中間報告書』(平成24～26年科学研究費補助金 基盤研究 (A) 海外学術調査 (課題番号 24252011))。
- 村知稔三 (2014) 「3つのロシアと保育制度の変遷：ロシア共和国から現代ロシアへの転換とその後を中心に」『幼児教育史研究』第9号、77-91頁。
- 黒木貴人 (2013) 「ロシア連邦における教育課程行政改革と地方・民族の教育—クラスノヤルスク地方・先住少数民族の「教育の保障」をめぐる実態を中心に—」(日本教育行政学会第48回大会自由研究発表資料)
- 村知稔三 (2011) 「ロシア連邦の乳幼児と保育の現状」(<https://www.blog.crn.or.jp/lab/01/32.html>、2020年11月1日最終アクセス)
- 村知稔三 (2010) 「世紀転換期における日本とロシアの保育界」『幼児の教育』第8号、4-7頁。
- 岩崎正吾 (2003) 「ロシアの幼児教育」『教育と医学』第51号、166-172頁。
- 川野辺敏編 (1983) 『世界の幼児教育3 ソビエト・東欧』日本らいぶらり。
- Федеральный Закон «Об Образовании в Российской Федерации», Москва, Проспект, 2019.
- Приказ Минобрнауки России от 17.10.2013 N1155, Федеральный Государственный Образовательный Стандарт дошкольного образования.
- Зарегистрирован в Минюсте РФ 18 января 2012 г. Регистрационный N 22946, Типовое положение о дошкольном образовательном учреждении.
- Муниципальное бюджетное дошкольное образовательное учреждение «Детский сад № 3 «Ручеек» п. Тура» Эвенкийского муниципального района Красноярского края (<http://detsad3-tura.bdu.su/vizitnaya-kartochka/> 2020年10月31日最終アクセス)

¹ 同調査は、平成24～26年度科学研究費補助金基盤研究 (A) 海外学術調査「先住民族の教育権保障に関する国際比較研究」(課題番号24252011、研究代表者 岩崎正吾) によるものである。

² ロシア語では「дошкольного образования」という。

³ 日本でいう未満児を対象とした保育所保育に該当すると言えるが、ロシア連邦ではいわゆる幼稚園・保育所は全て「幼稚園детский сад」との名称で統一されている。

⁴ ここでいう健康改善 оздоровительныеの対象となるのは、結核や長期的な治療が必要となる病気を有し、特別な医療や健康改善措置を行う子どもである(就学前教育施設標準規程第9条)。

⁵ 一般的な教育プログラム (①) と障害児のための教育プログラムの複合を指す。

⁶ 出生率や子育て支援政策、待機児童等をめぐる現状や諸課題については村知 (2015) に詳しい。

⁷ 233.9万km²、ロシア連邦全体の13%を占める。

⁸ 連邦の法律では、47の民族がロシア連邦における「先住少数民族」とであると規定されている。そしてその先住少数民族とは「伝統的に居住する領土に住み、伝統的な生活様式、経営方法及び狩猟・漁労・畜産等を営む祖先をもち、ロシア連邦内で5万人以下の、自律的なエスニック共同体によって自己を意識している民族」を指すと定義されている。すなわち、5万人を超える民族については先住民ではない「民族」とみなされる。先住少数民族に限定されない民族は、全体で約200居住しているとされている。

⁹ 以下に引用する写真は、全て筆者が撮影したものである。

¹⁰ これらの理念についての詳細は、黒木 (2020) を参照されたい。